

教科分担制を伴う チーム学年経営の強化 推進事業

横浜市教育委員会

- 1 横浜市の概況
- 2 小学校の学年経営の現状
- 3 チーム学年経営の仕組み
- 4 学校アンケートの結果から
- 5 導入した学校の実際

1 横浜市の概況



政令市最大、日本最大の基礎自治体

人口 (2019.7.1)

374万 8,443人

学校数 (2019.7.1)

510校

小学校	340校
中学校	146校
義務教育学校	2校
高等学校	9校
特別支援学校	13校

世帯数 (2019.7.1)

170万 8,884世帯

児童生徒数 (2018.5.1)

約27万人

外国人人口 (2019.6.末)

10万1,039人

外国籍児童生徒数 (2019.5.1)

3,658人

教員数 (2018.5.1)

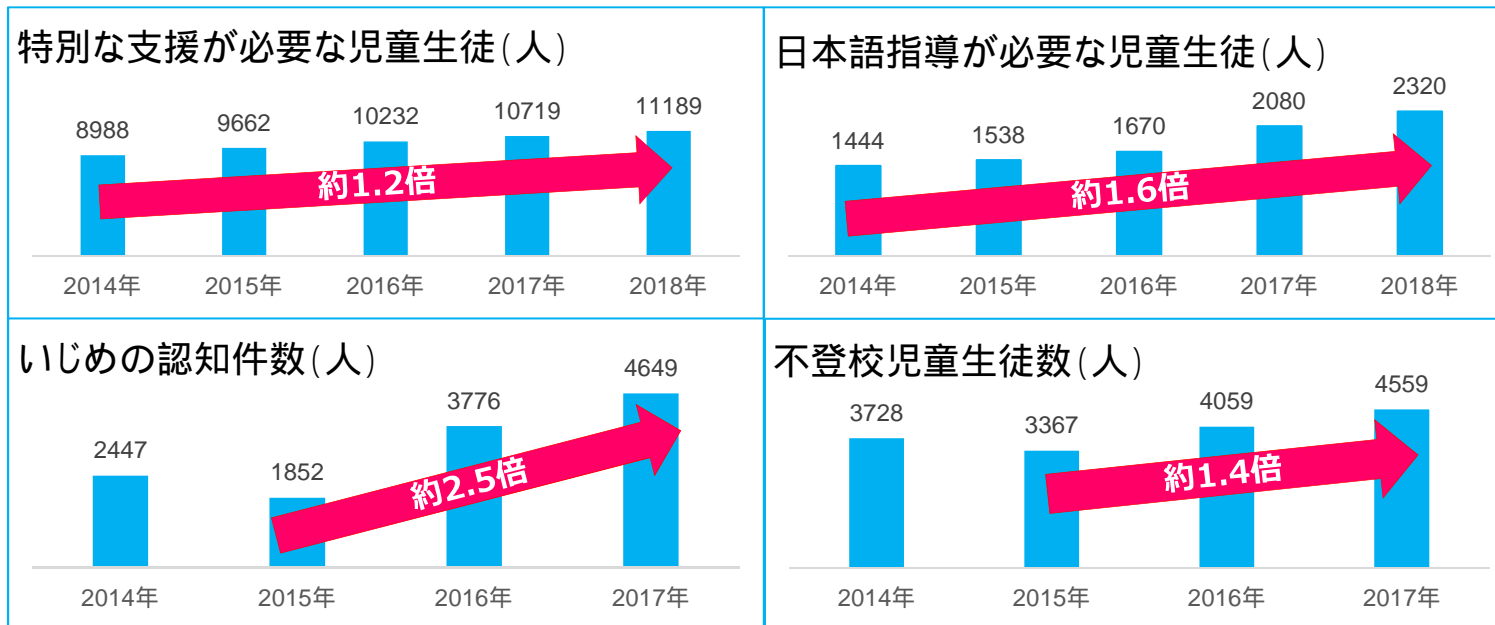
約1万6千人



1 横浜市の概況 **—学校現場の多様化・複雑化—**



**特別な支援や日本語教育が必要な子ども、
いじめの認知件数や不登校の子どもの増加**



**教職員の人的配置の充実と
子どもたち一人ひとりに合わせた支援が
必要不可欠に**

2 小学校の学年経営の現状

不登校

特別な支援

1組



特別な支援

不登校

2組



特別な支援

いじめ

3組



学年主任
兼 学級担任

学級担任
(初任者)

学級担任

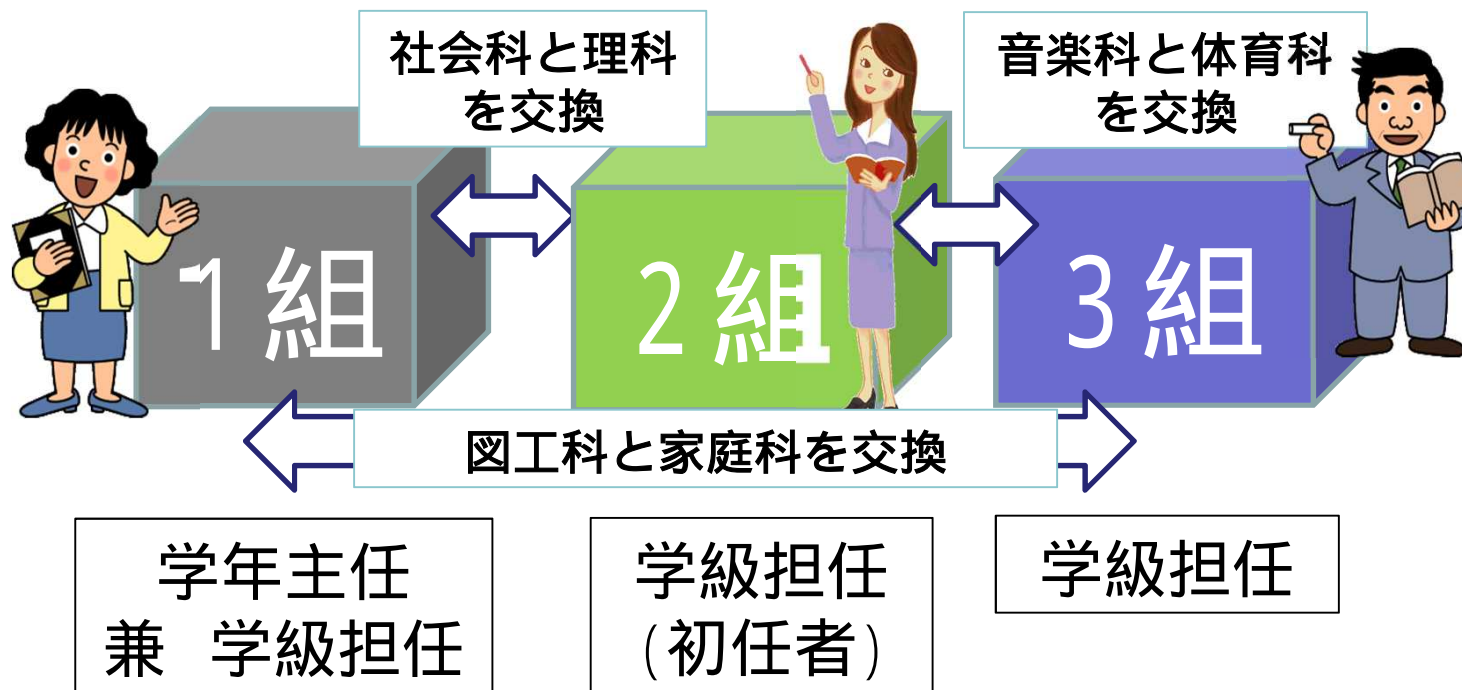
専科教員



学級担任が
様々な課題意識を抱えている

3 チーム学年経営の仕組み

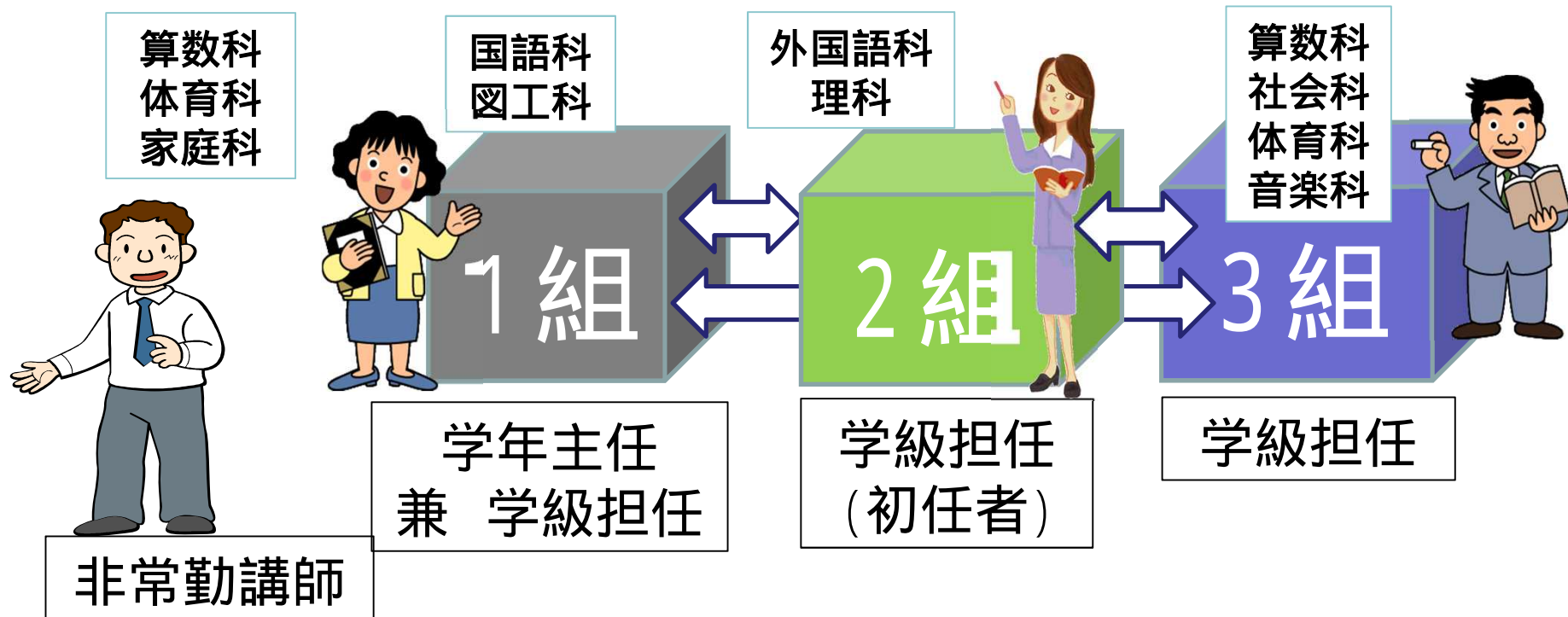
教科の授業時数を考えて交換、それ以外の教科は学級担任



交換授業によるチーム学年経営

3 チーム学年経営の仕組み

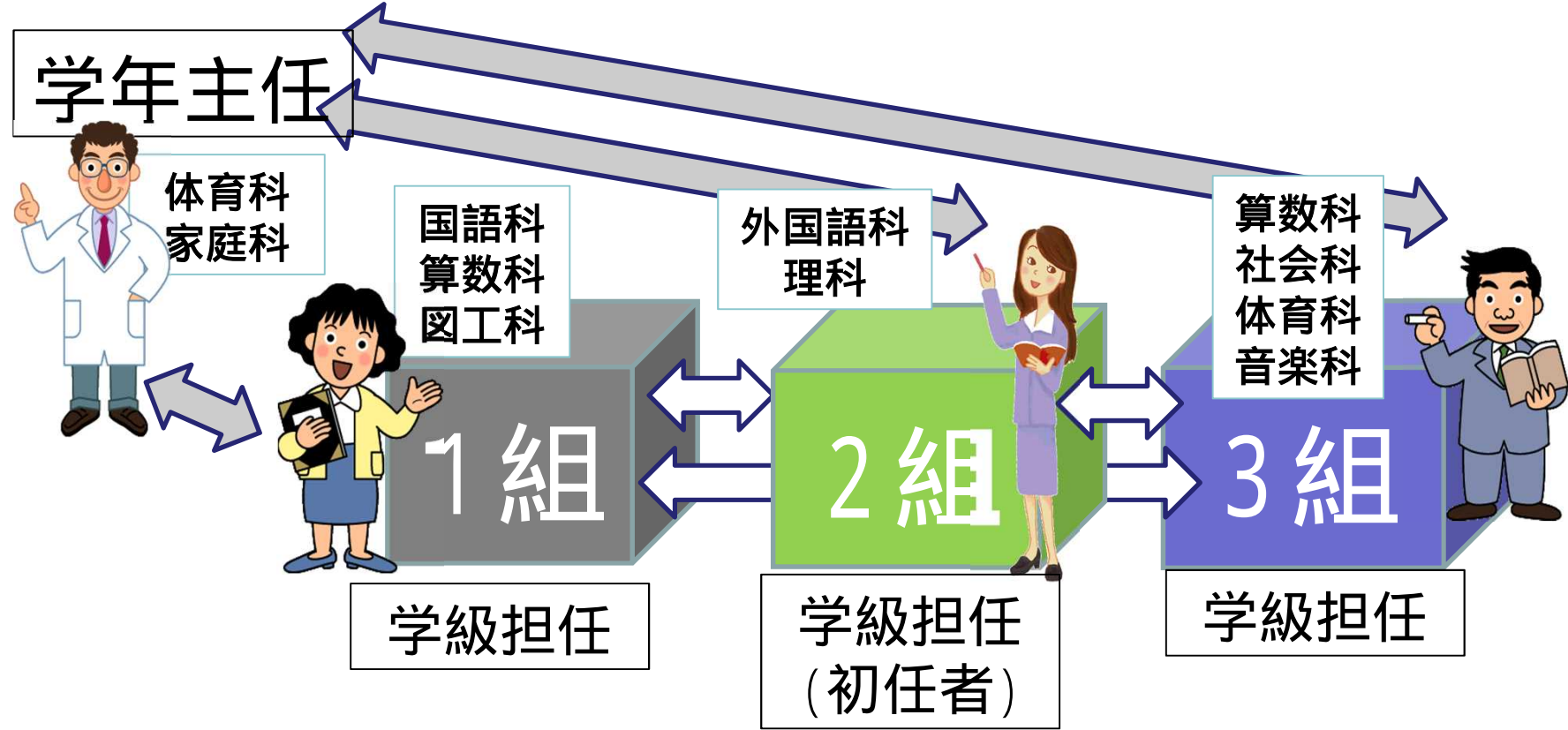
特別活動、総合的な学習の時間、道徳の授業は学級担任、
それ以外の教科はすべて分担



教科分担制を伴ったチーム学年経営の導入

3 チーム学年経営の仕組み

特別活動、総合的な学習の時間、道徳の授業は学級担任、
それ以外の教科はすべて分担



本務教員の配置による「チーム学年経営」

3 チーム学年経営の仕組み



理想的な状況での「チームによる学年経営」のメリット

学級をもたない学年主任が
学年全体をマネジメントしていくことにより、

学級担任が気付かない子どもの状況に適切に対応できる

教職員一人ひとりの置かれた状況や
ライフスタイルに合わせたマネジメントができる
加えて、教科分担制を導入することにより、

授業を通じての複数の教職員による子どもの
見とりが可能となり、本物の情報共有ができる

教科指導の専門性の向上と授業の質の向上が見込める

アンケート結果からみる 成果のまとめ



4 学校アンケートの結果から

目的

- 「児童の学力向上」
 - 「児童の心の安定」
 - 「教職員の負担軽減」
- 三つの視点から現状を捉える。

対象者と対象者数

- 平成30年度「チーム学年経営」推進校8校の
管理職とチーム学年経営に関係した教職員
- 47名

実施日と方法

- 平成31年3月1日(金)～3月19日(火)
- アンケート形式による聞き取り(24項目)

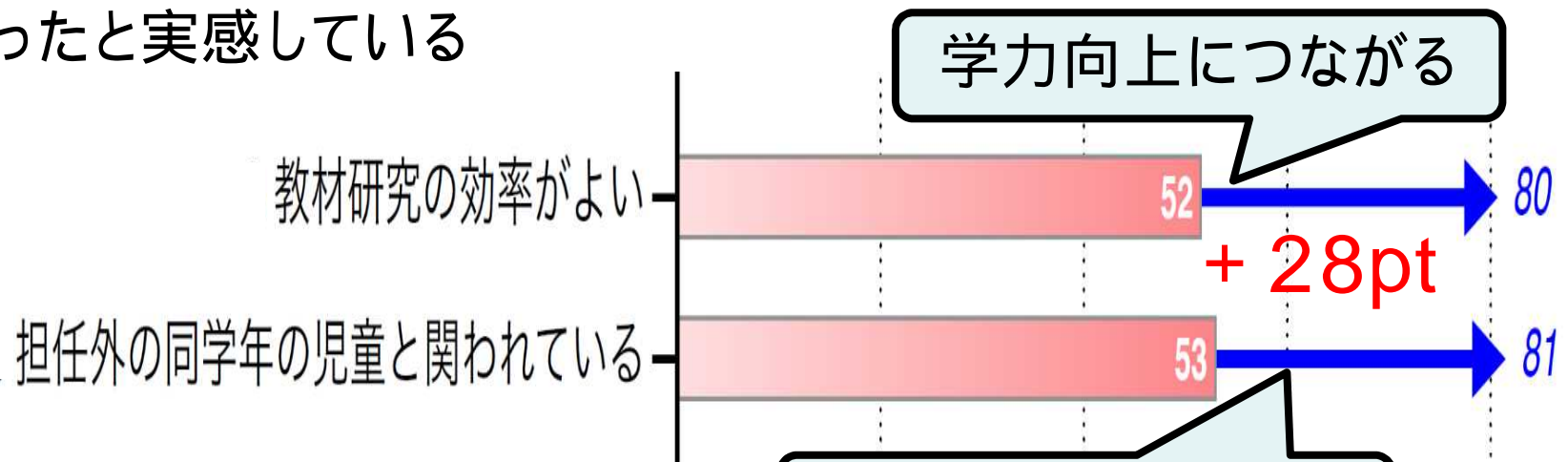
共同研究者

- 横浜市立大学データサイエンス学部 土屋隆裕 教授

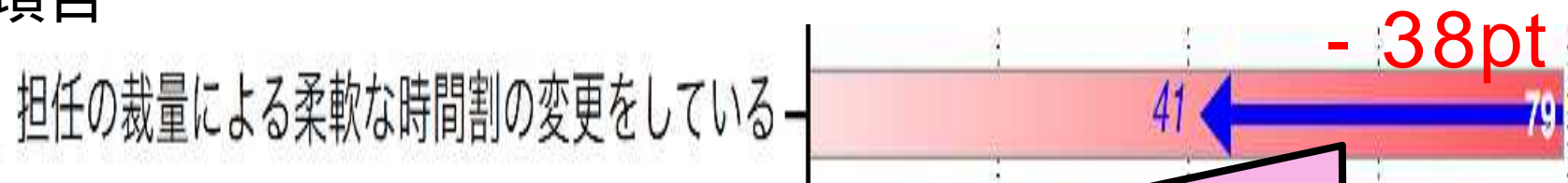
4 学校アンケートの結果から

いちばん影響のあった結果の概況(導入前と導入後の評価平均の比較)

よくなったと実感している
項目



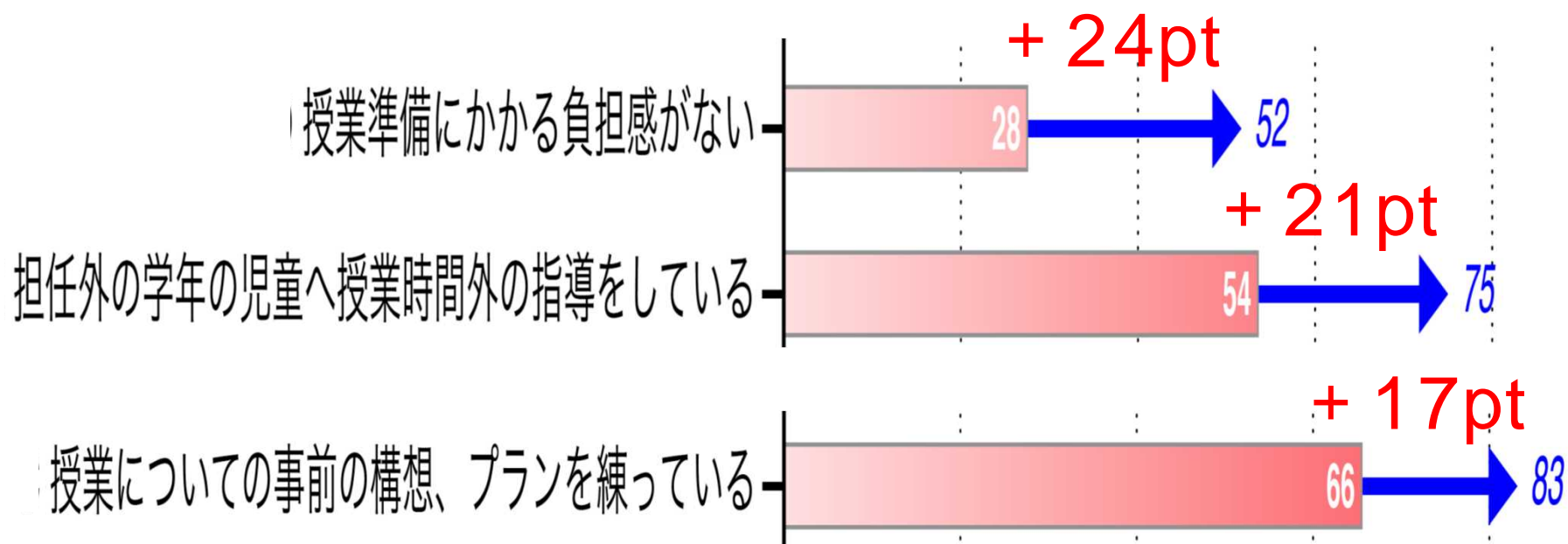
難しくなったと実感している
項目



固定された時間割への不自由さを感じている

4 学校アンケートの結果から

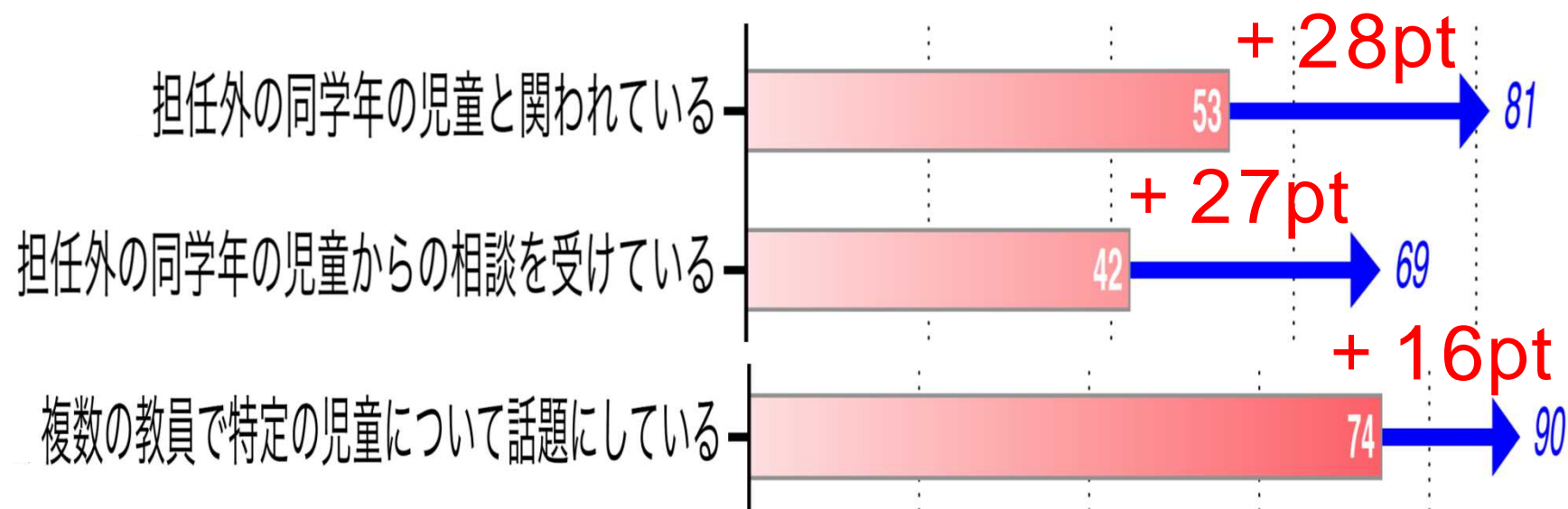
学力向上に関係すると思われる項目



教科が分担され、担当する教科の教材研究や授業準備に集中することができるので、授業の質が向上し、結果的に学力の向上につながると考えられる。

4 学校アンケートの結果から

子どもの心の安定に関係すると思われる項目



学級の児童だけでなく、学年全体で関わったり話題にしたりしたほうがよいと判断した児童に関して、複数の教職員で対応していることが分かる。このことが、児童の心の安定につながると考えられる。

4 学校アンケートの結果から

教職員の負担軽減に関係すると思われる項目



授業準備、子どもや保護者への対応、年休の取得、悩みの共有等、小学校において学級担任が一人で抱えがちな状況や内容に関して、確実に負担が軽減されたと感じている管理職や教職員が増えているのが分かる。

5 導入した学校の実際

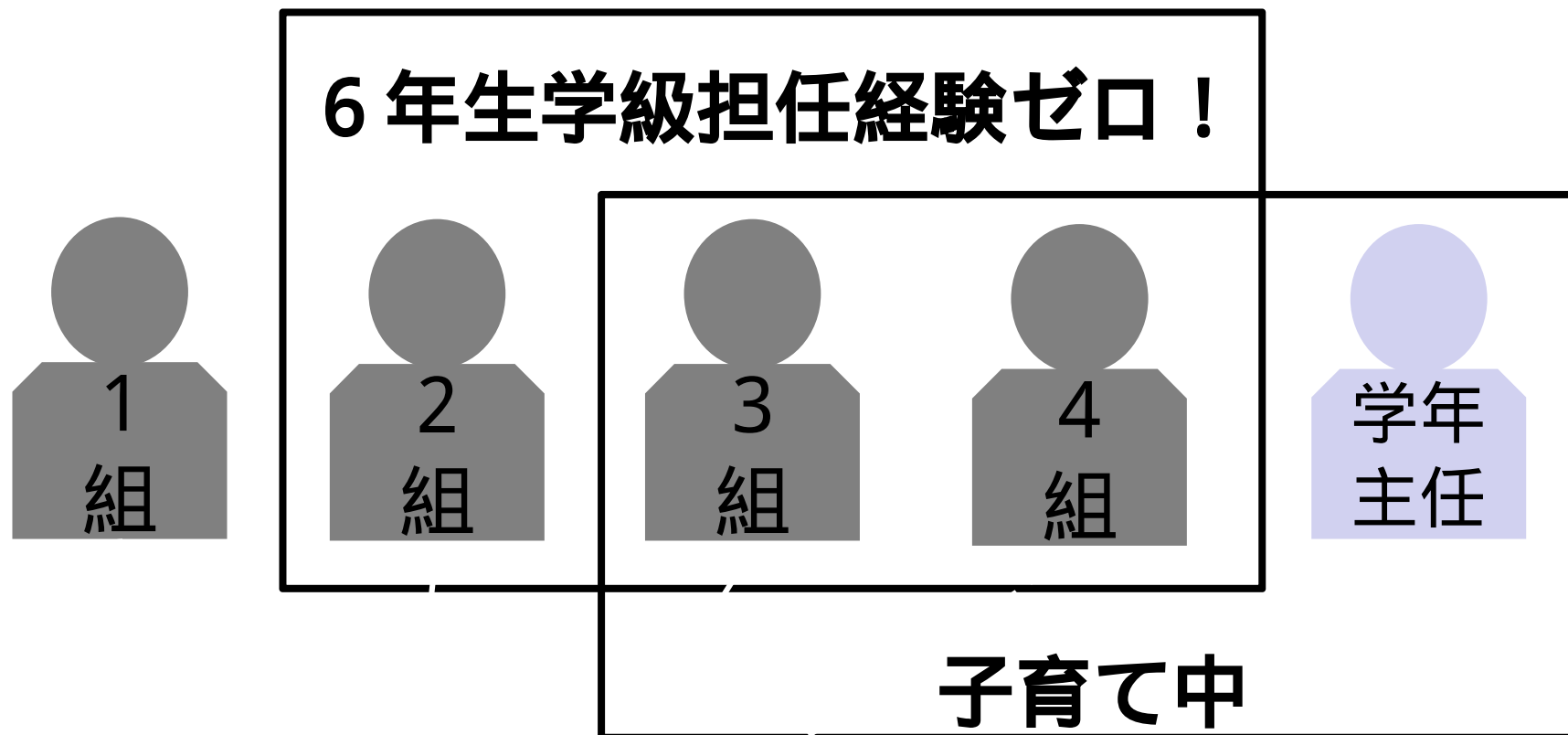
港北小学校の紹介



児童数796名 学級数26学級

5 導入した学校の実際

チームを構成するメンバー (平成31年度)

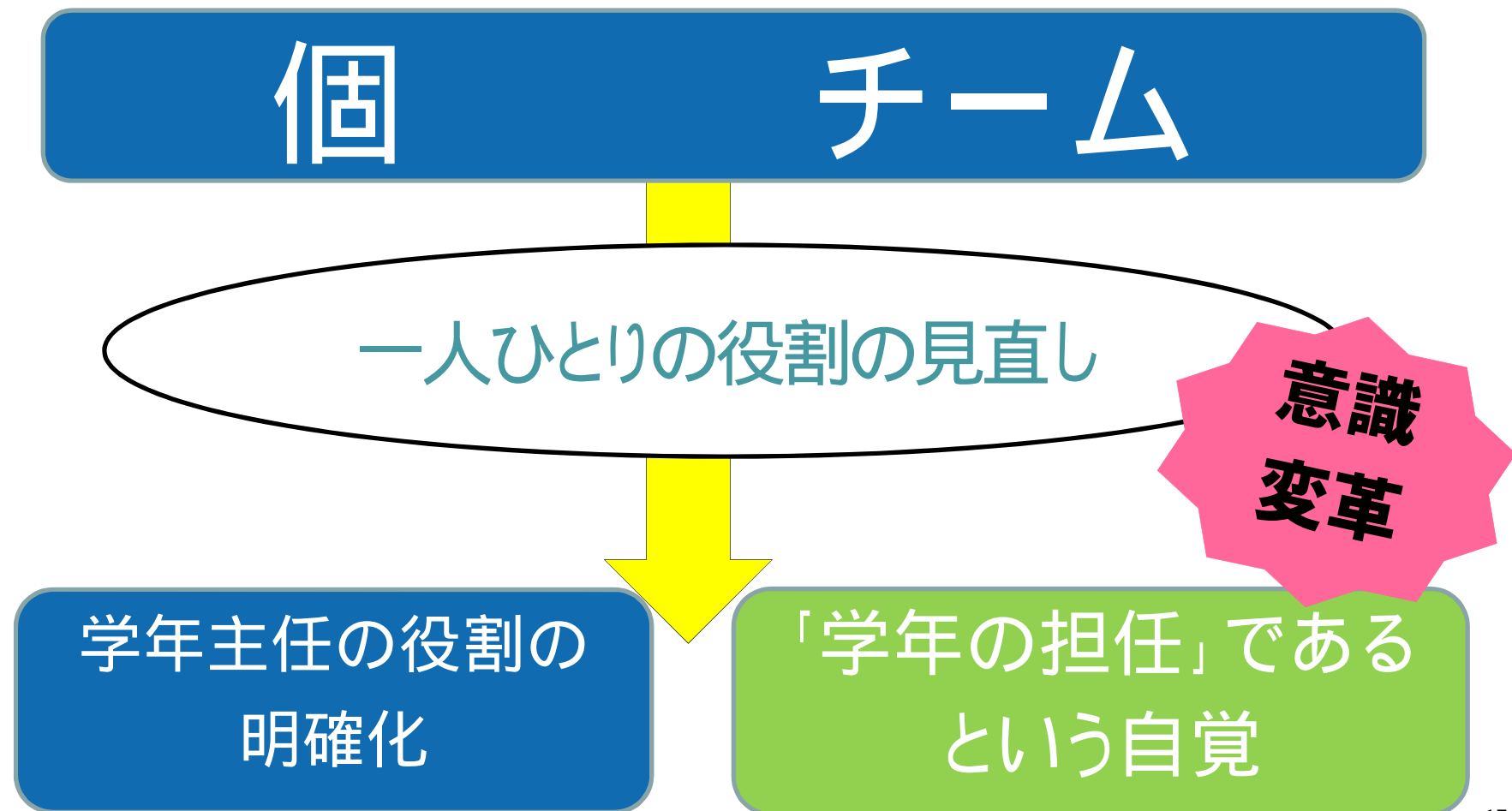


6年生の学級担任の経験がない教職員が3人

子育て中の教職員が3人

5 導入した学校の実際

目指すチームの姿を設定



学年主任の役割

子どもや保護者、
教職員の実態把握

学年目標の
設定・共有

学年研究会の充実

学年全体の子ども
との関係づくり

学年全体の保護者
との関係づくり

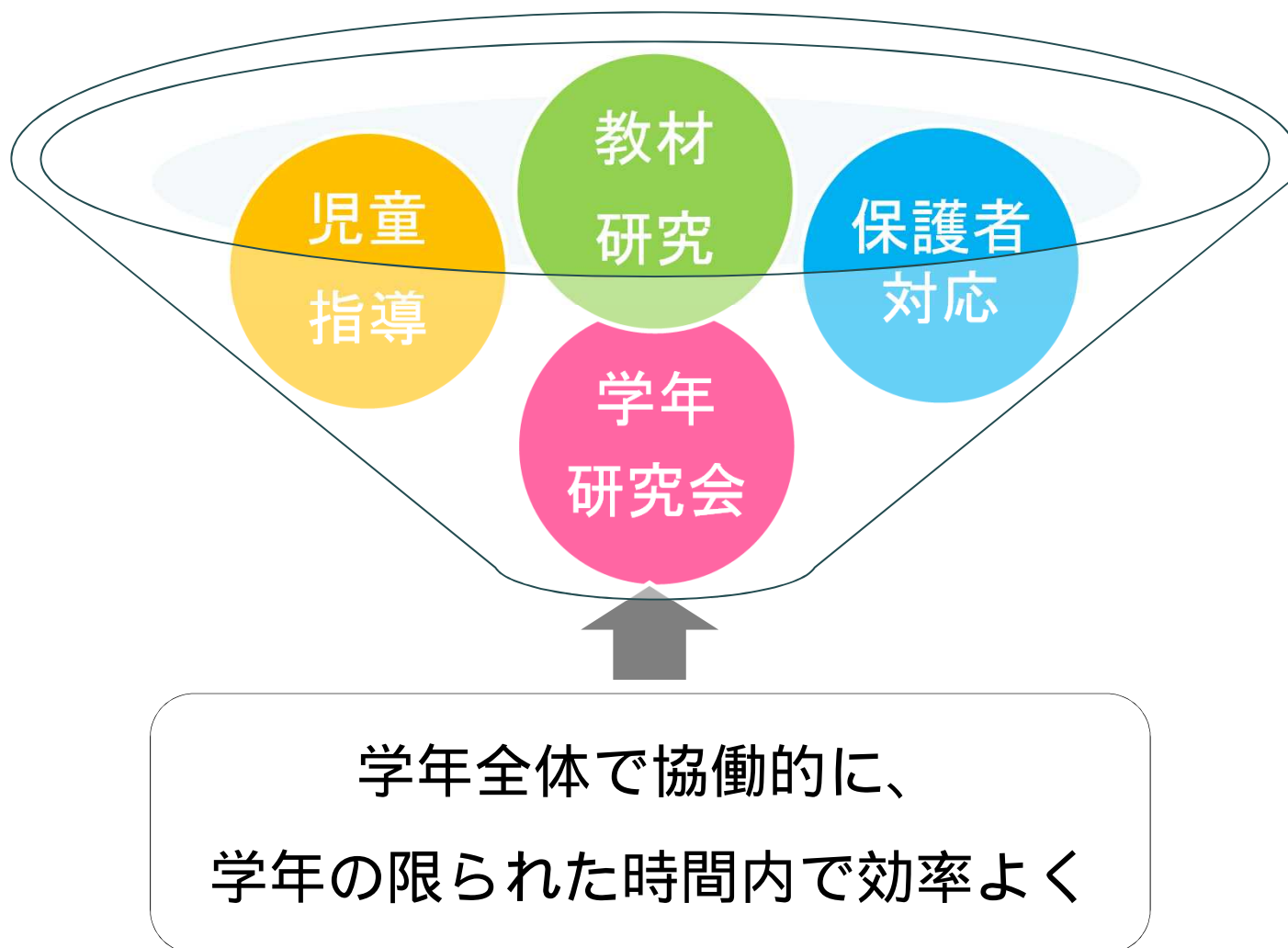
学年内の教職員
との関係づくり

週ごとの
時間割の作成

学年主任の業務は多岐にわたる。
学級をもたない状況だからこそできる業務も多い。

5 導入した学校の実際

業務の効率性と実効性を追求



5 導入した学校の実際



業務の効率性と実効性を追求

児童指導

より客観的で多面的な判断
子どもからみて統一された指導

保護者対応

保護者のニーズに合ったスピード感のある丁寧な対応

学年研究会

短時間でより生産的な情報交換会の運営

教材研究

授業を参観し合うことによる授業の質の向上

5 導入した学校の実際

業務の効率性と実効性を追求(ある週の時間割例)

	(月)				(火)				(水)				(木)				(金)			
朝	国語スキル				朝会								算数スキル				読書タイム			
組	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
1校時	図	算	社	理	道	道	道	道		体	書	算	音	図	家	社	外	社	理	家
2校時		音	体	理	算	社		外	理	算		社	算	図	家	音	算	外	理	家
中休み																				
3校時	音	理	図	体			外	算	総	総	総	総	社	家	音	図	理	算	体	外
4校時	体	理	図	音	家	外	算	体	総	総	総	総		家	算	図	理	書	社	算
5校時	算	体	音	書	外	算	体		社	音	算	理	体	社	理		社	理	算	体
6校時													書	体	社	算	体		外	社

原則として、国語、総合的な学習の時間、特別活動、道徳を、学級担任がもち、それ以外の教科を学年内や専科教員で分担している。

5 導入した学校の実際

業務の効率性と実効性を追求 (1組担任の時間割例)

		1組担任の時間割				
朝						
組		月	火	水	木	金
1校時		3組	道徳	国語	4組	2組
2校時		国語	2組	4組		
中休み						
3校時			特活	総合	1組	
4校時				総合	国語	3組
5校時				1組	2組	1組
6校時		国語	国語		3組	4組

青色部分が、「空き時間」

月曜日に3時間

火曜日に2時間

木曜日に1時間

金曜日に2時間

合計8時間

国語、特活、総合、道徳は、学級担任の授業。
学級名の箇所は、分担教科である社会科の授業。

5 導入した学校の実際

業務の効率性と実効性を追求 (空き時間の変化)

平成29年度 (導入前)

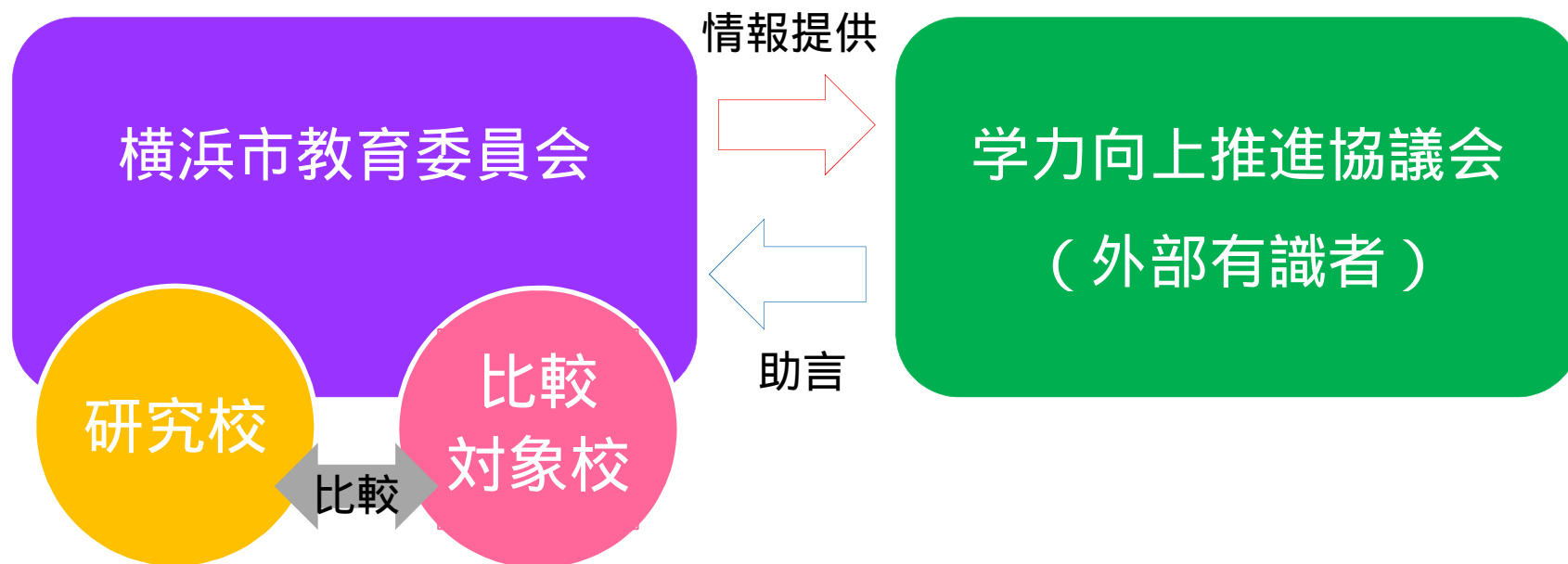
		専科	専科	専科	計
教科		音楽	図工	家庭科	空き時間
1週間		1.4時間	1.4時間	1.6時間	4.4時間

平成30年度 (導入後)

	学年主任	専科	専科	専科	計
教科	算数	音楽	図工	外国語	空き時間
1週間	4時間	1.4時間	1.4時間	1.6時間	8.4時間

1.9倍

「学力向上のための基盤づくりに関する調査研究」の推進



「チーム学年経営」の在り方については、「学力向上の基盤づくりに関する調査研究」を活用して分析を進め、その成果を市内外に発信予定。